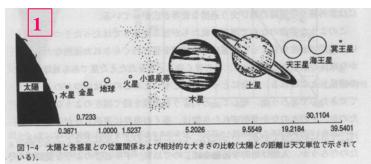
地球環境概論



「地球生物学」より

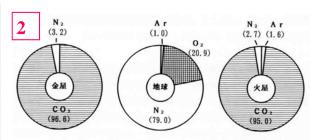
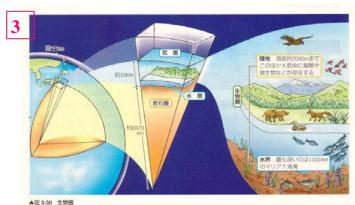


図 3.1 金星, 地球, 火星の現在の大気組成。 数字は気体分子数の百分率を示 す。 この他に、 地球では 0.03 % の CO₂ が、 金星と火星では微量の水蒸気と O₂ が大気中に存在する。(文献 1) より作図)



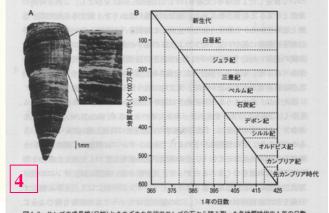


図 1-3 サンゴの成長線(日輪)とさまざまな年代のサンゴ化石から読み取った各地質時代の1年の日数 A: デボン紀の単体サンゴ(スウェーデン、ゴットランド島産). Kennett & Ross(1984)より、B: 地質 時代をさかのばるほど1年の日数は長くなっている.Runcorn(1966)より改変.

での。 「ない。 「ないい。 「ないい。 「ないい。 「ないい。 「ないい。 「ないい。 「ないいい。 「ないいい。 「ないいい。 「ないい

図 2-2 炭素の循環概念図. 二酸化炭素は炭酸として雨や地下水に溶け込んでケイ酸塩や炭酸塩を風化し、溶け出した炭酸水素イオンは河川を通じて海に流れ込み、海水中で炭酸塩鉱物を生成する. この炭酸塩は海底に沈殿し、プレート運動によって大陸の下に沈み込み、高温高圧下で変成して二酸化炭素に分解する. この二酸化炭素は火山活動で再び大気中に戻される. 松井(2000) より.

↑↓「地球生物学」より

